



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第 18 主日 B 年 (2024 年 8 月 4 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：出エジプト記 16 章 2—4、12—15 節

第二朗読：エフェソの信徒への手紙 4 章 17、20—24 節

福音朗読：ヨハネによる福音書 6 章 24—35 節

イエスさまとの会話

三つの朗読から

第一朗読の神さまの言葉「天からパンを降らせる」(4 節) は、ここに銘記したい言葉です。荒野では、人間は自分の小ささ、惨めさを体験します。照りつける太陽、緑のない褐色の土地、生き物はなく、水もありません。そのような苛酷な環境で人間は、いのちについて思い巡らせます。いのちを思い巡らすことで、いのちの源である神についても考えます。荒地は、神と人どが向き合う場所なのです。

今日の朗読箇所は、イスラエルの民が食物がないことに不平を述べる場面から始まっています。彼らは、直面している食物の窮乏にしか関心がありません。食物の与え主、いのちの与え主である神さまへのまなざしは持ちあわせていません。ただ満たされればよいと考えています。そんな民の気持ちを神さまはよくご存じでしょうが、決して怒ることなく、ウズラとパン (30 節ではマナと名づけられます) を与えました。荒野は何もないところだからこそ、いのちの与え主である神さまは、ここをこめて人間に対応するのです。

第二朗読では、キリストによってユダヤ人と異邦人との間の隔ての壁が取り壊されたと主張するパウロは、キリストにおいて一つにさせられているのだから、一致の中に生きなさいと勧めています。「古い人を脱ぎ捨てて……新しい人を身に着け」(22、24 節) という表現を覚えましょう。毎日、わたしたちは古い人を脱ぎ捨てるのです。そして新しい人へとさせていただくのです。毎日、わたしたちは新しく創造されているのです。「キリストについて聞」いた (21 節) わたしたちは、新しい生き方を目指すのです。そのためにミサがあります。

福音朗読は、「わたしが命のパンである」というイエスさまのひと言が響きます。群衆とのやりとりが展開していますが、イエスさまの言葉の意図と群衆の理解には隔たりがあるようです。「パン」という日常の単語を思い巡らせましょう。「神のパンは、天から降って来て、世に命を与える」(33節)。イエスさまご自身が「パン」です。それは神の言葉であり、同時にイエスさま自身の肉と血です。しかし、群衆は単に空腹を満たすためだけの「パン」を考えています。本当の「パン」にありつきたいものです。

説教：イエスさまとの会話

『ヨハネによる福音書』のあちらこちらにイエスさまと人々との会話があります。例えば「サムリアの女」のお話も、長い対話が続きます(4章1-26節)。あるいは、復活したイエスさまと弟子のトマスも対話をします。短いですが、深く鋭い対話です(20章27-29節)。他の福音書とは違って、『ヨハネによる福音書』は少し難しい印象を受けます。「初めに言があった」(1章1節)と、冒頭からなんとなく難しい雰囲気です。ですが、よく読んでみると、イエスさまが語った言葉と、それに応じていく人々との関わりあいのようなものが見えてきます。イエスさまは会話が上手だったようです。

今日の福音もイエスさまと群衆との会話が続きます。会話は、いわば言葉のキャッチボールです。相手の言葉を受けて、次の発言へとつながっていくからです。しかし、今日の福音での会話は、なんとなく落ち着きがありません。例えば26節で、「あなたがたがわたしを捜しているのは……永遠の命に至る食べ物のために働きなさい」とイエスさまが語りかけているにもかかわらず、群衆の反応は「神の業を行うためには、何をしたらよいでしょうか」(28節)と全く関係のない反応となります。それでもイエスさまは群衆の言葉を受け取って、「神がお遣わしになった者を信じること、それが神の業である」(29節)と会話を展開して行きます。その後は「信じる」(30節)、「パン」(31、32節)、「与える者/ください」(32節、34節)、再び「パン」(34、35節)と言葉のやり取りが続きます。まるでしりとりゲームのような感じです。最終的に「わたしのもとに来る者は……」(35節)とイエスさまが言います。それは、この会話の最初の方にあった「イエスを捜し求めてカファルナウムに来た」(24節)群衆への答えとなっています。

イエスさまは相手の言葉をさえぎったり、否定したりはしません。相手の言葉を受け取ってから、それに自分の考えを加えて会話の相手に返していきます。こうして、知らず知らずのうちにイエスさまとの深い関わりあいに入っていくようになるのです。

祈りは神さまとの「会話」です。全身全霊を込めた「会話」です。独白のような祈りにならずに、神さまからの言葉に耳を傾けることができますように。